

パリの虐殺 (2)

クリストファー・マーロー 作
熊崎久子 訳

第十六場

[王アンリ、ギーズ公爵、エペルヌーン、ジョワユー公爵登場]

アンリ 親愛なるジョワユー殿、反乱軍を率いるナヴァール王に
相対すべく、今や進撃の準備についておる我が全軍の将に
貴君を任じよう。

貴君の懇請に応え、進撃の途に就くことに同意したのだ、
貴君を愛するが故に貴君の生命が危機にさらされることが
絶えず懸念されることを思えば容認し難いことではあるが。

5

ジョワユー 恐れ入ります、陛下。では失礼いたします。

ギーズ公、エペルヌーン公、これにて。

ギーズ ジョワユー殿、心よりご健康を祈っております。

[ジョワユー退場]

アンリ 愛するギーズ卿、貴殿と奥方はそれ程までの深い情けをもって 10
我が愛する寵臣たちに挨拶をされるのか。

覚えておいでであろうな、貴殿は、

奥方がお気にいりの友人の

私の寵臣に書いた手紙のことを？

[ギーズに向かって額に角を生やしてみせる]

ギーズ 何のことです、陛下？ 事実、この場においては

無用のことではありませんか？ 15

かくまで笑い者にされ、愚弄されなければならぬのですか？

国王や皇帝らしからぬなさりかたではありませんか、

キリスト教国の傲慢な国王たちすべてが

私に対しそのような侮蔑の念を抱いているというのなら、

彼らや彼らの嘲笑を私がいかにあざ笑っているか思いしらせてやる。 20
私があなたの寵臣たちを愛しているですと！ あなたご自身が

あの連中に溺れていればよいのだ！

彼らを恥辱と思わぬ者は他におりませんぞ。

ここにおいて、天におわすあらゆる聖者たちにかけて、

私自身深い恥辱と感じているあのならず者に、

かくまでに私を怒りに駆り立てた貴方のお言葉に対しても、 25

あの淫売の好意を自らの血で贖わせてやるぞ。

奴が私の名誉に傷をつけたとしても、つけなかったとしても、

「神の死にかけて、奴を殺してやる」。

[退場]

アンリ いやはや、あの冗談はひどく効いたものだ。

エペルヌーン 陛下、二人を仲直りさせるのが宜しいでしょう。 30

公爵が誓いを無にしたことは滅多にありませんから。

[ムゲルーン登場]

アンリ やあ、ムゲルーン！ 戸口でギーズに会わなかったか？

ムゲルーン いいえ、陛下。会ったとしたらどうなのですか？

アンリ 実のところ、会っていたら貴君は刺されていたことだろう。

彼は本気で貴君を殺すと誓っていたからな。 35

ムゲルーン 刺されたとしても私は彼が死ぬ迄は生きているかも

しれませんよ。

しかし何故彼は私にそれ程恐ろしい憎しみを抱いているのだろうか？

アンリ それは彼の奥方が貴君にそれ程迄の深い愛情を

抱いているからだろう。

ムゲルーン それだけのことなら、次に彼女に会った時に

その恋をきっぱり捨てさせましょう。 40

だが、彼はどちらの方へ行ったのでしょうか？ 故意に宮殿から

散歩に出て彼と出会うということにしましょう。

[退場]

アンリ こんなことはどうも性に合わない。さあ、エペルヌーン、公爵
を探し出し、仲直りさせよう。

[二人退場]

第十七場

[奥で警鐘が鳴り響く、そして叫び声]「ジョワユー公爵が死んだぞ！」

[ナヴァール王、バルトゥス、従者たち登場]

ナヴァール 公爵は戦死した、彼の率いる全軍も雲散霧消した、
我が軍は勝利の花輪で飾られたのだ。

かくして、神は常に正しき者を導き給い、
その栄光を地上に輝かされることが分かった。

バルトゥス この度の我が軍の勝利に恐れをなし、
フランス王が我々への憎しみを捨て、
再び軍を動かすことはせず、
或は、別のより良き目的の為に兵力を向けることになりましょう。 5

ナヴァール この惨虐なる戦いを遂行するに当たって
いかに多くの貴族たちが命を失ったかは
思い出すだに苦々しく、死ぬほどの痛恨事だ。 10
しかし、神は完全無欠なる真実に敵対しようとする者には
常に鉄槌を下されることを我々は知っているし、
この考えを命ある限り抱いていく所存だ。

英国女王と我が軍勢を統合し、
教皇の意を体した君主を我らの国土より敗走させ、
その聖遺物を我らの国々の岸辺から遠ざけよう。 15
さあ、諸卿、騒乱の嵐が過ぎ去ったからには、
意気揚々と我らが天幕へ戻るとしよう。

[退場]

第十八場

[一兵士、マスケット銃を持って登場]

兵士 さて、あんた、あんたは公爵を大胆にも寝取られ亭主にし、公爵の
私室の合鍵をお使いなすったね:もっとも、あんたは自分の持ち物以外
は何も取り出したりしなかったが、公爵のご気分を損なうような物を入
れちゃったね。そうして、公爵の市場を手に入れ、もともと許されても
いない場所に露店を出したって訳だ。公爵はあんたの地主だというのに 5

あんたは公爵の物を引き受け、公爵自身が耕す筈の土地を耕しておいでになる、それこそ公爵自身が自由にする土地だというのに。あんまり自由過ぎたのかもしれないが、そこんところが問題だがね：もっとも、俺はそいつを手にいれに來た訳じゃないんだ(出来るんだったらそうしたいもんだ)が、あんたを近付かせないってことさ、齒車がうまく噛み合ってくれりゃ、そうしてやるさ：何だ、こんなに早くお出でになったのかい？ さあ、やつけてやるぜ。

[ムゲルーン登場]

[兵士、彼を目がけて発砲し、射殺する]

[ギーズ、従者たちと登場]

ギーズ 待て、勇敢な兵士、さあ、これを持って姿をくらませろ。

[ギーズ、兵士に財布を与える。兵士退場]

そこに横たわっておれ、王の喜び、ギーズの嘲りの的だった奴。

アンリ、復讐してみよ、その気があり 勇気があるなら。

お前のことなぞ意にも介さずやったに過ぎん。

[従者たち、死体を運び去る]

[王アンリとエペルヌーン登場]

アンリ ギーズ公、

貴殿は兵力を結集しているそうだな。

いかなる意向によるものなのか未だ不明であるが、

余のために利することとも思えぬな。

ギーズ 何ですと、私はフランス国王に背いたりするものですか。

私がした事は、すべて神の福音のためです。

エペルターン いや、教皇のため、貴殿自身の利益のためだ。

貴殿以外のフランス貴族の誰が、野望に満ちたギーズ殿、

王の承諾も得ぬまま、敢えて武装などしましょうか？

この件に関し貴殿は紛れもなく反逆者だ。

ギーズ おう、卑劣なエペルヌーンめ、陛下がここにおられなかったなら、

ギーズ公爵はご立腹だと思い知らせずにはおかぬのだが。

アンリ 辛抱なされよ、ギーズ殿、エペルヌーンを脅かしてはならない、
フランス国王がご立腹だと貴殿が思い知らされずに済むようにな。 30

ギーズ 何を言われる、私はヴァロワ公の血筋を引く者ですぞ、
従って、ブルボン一族の敵にあたります。
また私は神聖同盟の宣誓者でもあります。
従って、プロテスタントどもに憎まれております。
されば、護衛兵に頼る他に何をしたらいいと言うのでしょうか？ 35
為し得ることとして、金を払って一軍の兵を雇っているのです。

エペルヌーン 金を払って一軍の兵士どもを雇っているですと、
外国からの支援を受けて暮らしている貴殿がか？
教皇とスペイン王は貴殿の親友であろう、
さもなけりゃ、貴殿がどんなに貧乏な公爵かってことは
フランス中が知っていることだろうよ。 40

アンリ そうだ、公爵を自分たちの金で養って、余の命令を撤回させ、
我が味方を抑圧せんと凶っているのはあの連中なのだ。

ギーズ 陛下、もっと明白に申すなら、次の通りです：
宗教上の熱意に駆り立てられて、
頑迷なプロテスタントたちを屈服させるため、 45
可能な限りの兵力を召集するつもりです。
それと知れば、陛下、教皇は三重宝冠を売却されましょう、
そうです、そしてカトリックのスペイン王フェリペ陛下も
私の窮乏を目にされるよりは、インディアンたちに黄金を蔵する
アメリカの大地の臓腑を引き裂かせようとされるでしょう。 50
プロテスタントどもをその翼の下に匿っているナヴァール王には、
ロレーヌ家は敵側なのだと言うことを
思い知らせてやるとしましょう。

陛下は私の率いる軍勢を恐れられることはありません。

陛下の御身を護り、陛下の敵を撃滅せんがための軍ですから。

アンリ ギーズ殿、余の王冠を貴殿の頭上に載せ、貴殿が
フランスの王になればよい、 55

私が元老院議員よろしく「賛成」と叫んでいる間に、
独裁者らしく、戦争でも平和でも好きにされるがよい。
貴殿の傲慢無礼には我慢出来ぬ。

貴殿の軍を解散させるがよい、さもなくば、我が勅命により
フランス全土に、貴殿を反逆者として布告しますぞ。

60

ギーズ 難しい選択だ。猫をかぶらねばなるまい。 [傍白]

陛下、陛下に対し、真の恭順を表し、
偽りのない真心の証として、
お手に口づけをし、お暇いたします、
わが軍の兵を速やかに撤退させる所存です。

65

アンリ では、ギーズ殿、さらばだ。王と貴殿は盟友だ。

[ギーズ退場]

エペルヌーン しかし陛下、彼を信頼なさいませ、
彼がいかに華やかにパリに入城し、
市民たちが贈り物や態度で、
いかに彼を手厚く遇し、彼の命に従うと約束したかを
陛下がご覧になっておられれば――

70

いや、市民たちは街頭で、王が教皇聖下のご意志を
遂行しなかった故に、ギーズが敢えて王に対し兵を挙げたのだ
と恐れ気もなく語っております。

アンリ パリの市民たちはそれ程までにギーズを歓待しておるのか？
ならば、わが王位に対し、たちどころに反旗をひるがえす

75

所存であろう。

私に任せなさい。そこに誰かおるか？

[従者、ペンとインクを持って登場]

我が評議員全員を即刻解散させよ、
私が直ちに署名、捺印致そう。

[従者、書く]

この後は我が頭脳を我が評議員としよう。彼らには誠意などない。
で、エペルヌーン、貴殿の考えに従うことにしよう。

80

エペルヌーン 陛下、

陛下の御身のご安泰のためには、
ギーズを亡き者とし、陛下ご自身はあらゆる疑惑から
免れられるようになされるがよろしいでしょう。

85

アンリ まず、この書類から手をつけ、捺印をさせてくれ。

[書く]

それから我が存念を聞かせよう。

さあ、これを直ちに評議員の許へ届けよ

[従者退場]

さて、エペルヌーン、私は温和、穏健に見えるであろうが、

内に激情を持たぬなどと考えないでくれ。

私はひそかにプロワに参ろうと思っている。

パリが今やギーズに組みするといふのであれば、

ここはフランス王が滞在するところではない。

ギーズが裏切られ、死ぬといふのもない限り。

だが、私が生きているのが確かな如く、必ず、彼の死を

確かなものとしてくれよう。

[二人退場]

第十九場

[ナヴァール王、手紙を読みながら、バルトゥスと共に登場]

ナヴァール 卿、フランスから知らせがきましたぞ、

ギーズが王に対して兵を挙げ、

パリもまた陛下に反旗を翻したそうだ。

バルトゥス では今こそ陛下がフランス王に対する敬愛の念をお示しに

なる絶好の機会でしょう。

怨敵撃破のための援軍をお出しなさい、

感謝を持って受け入れられぬ筈はありません。

ナヴァール バルトゥス、そうしよう。では、急遽フランスへ赴き、

私の名代として陛下にご挨拶をしてくれ。

ギーズ党とその共謀者どもに立ち向かうため

出来得る限りの援助をさせて頂くと断言してきてもらいたい。

バルトゥス、行くがよい。陛下によろしくお伝え申し、

程なく私も伺うと申し上げてくれ。

バルトゥス かしこまりました、陛下。

[退場]

[プレッシュ登場]

ナヴァール プレッシュ。 15

プレッシュ 陛下。

ナヴァール プレッシュ、至急我が兵を召集せよ、
 急ぎフランスへ向け進軍させるのだ、
 フランス王を援助しギーズと対峙せねばならぬのだ。
 行け、よいか、我々がすでに彼の地にいるべき時なのだぞ。 20

プレッシュ 分かりました、陛下。

[退場]

ナヴァール あの邪しきギーズは、名にし負うフランス王国を
 滅亡へと導くような気がしてならぬ、
 彼の天駆ける野望は王冠を目指し、
 信教上の軋轢を自らの好機ととらえ、 25
 教皇とその一派を王国に植え付け、
 全王国をローマ教皇庁に結び付けようとしているのだから。
 だが、もしも神が私の企てを成功させ給い、
 我々を無事フランスへと到着させ給うなら、
 卑劣にも祖国の滅亡を凶る彼を、 30
 撃退し、死へと追いやってやろう。

[退場]

第二十場

[護衛隊隊長、コッシンと三人の暗殺者たち登場]

コッシン さあ、お前たち。お前たちは榮譽を担って生きているギーズ
 を憎み、その生命を絶とうと決意を固めたというのだな？

どうだ、お前たち、奴がやって来るのを見て、恐れたりはしないか？

第一の暗殺者 奴を恐れる、と言われるのですか？ チェッ、
 奴がこの場にいたら、即座に殺してみせます。 5

第二の暗殺者 おお、奴の心臓が俺の手の中に跳び
 込んできてくれたらなあ。

第三の暗殺者 だが、奴は何時なんどき俺たちに殺されに現れるんだ？

コッシン よし、それでお前たちの決意の程は分かった。

第一の暗殺者 俺たちに任せてください、請け合いますよ。

コッシン では、お前たち、この部屋の中で待機してくれ、
間もなくギーズがやって来るだろうから。 10

暗殺者たち 金は頂けるんでしょうな？

コッシン ああ、ああ、心配するな、隠れている。では、いいな、
しっかりやるんだぞ。

さあ、その勢力をもってフランスを支配し、
その光がプロテスタントにとっては致命的であった星は
今や地に墮ちるのだ。 15

今こそ、彼は権勢の絶頂の中で倒れ、滅びなければならぬのだ。

[王アンリとエペルヌーン登場]

アンリ さあ、護衛隊長、刺客たちの用意はよいか？

コッシン 宜しいと思います、陛下。

アンリ だが、その者たちは榮譽をまとって生きているギーズを憎み、
決意を固め、暗殺の用意をしているのであろうな？ 20

コッシン 確かでございます、陛下。

[退場]

アンリ ならば、来い、傲慢なギーズよ、うんざりする程の
野心を詰め込んだお前の胸にあるものを、ここで吐き出すがよい。
私の死が隠されていたお前の生命を吐き出し、
お前の死と共にその果てしもない反逆をも終わらせるのだ。 25

[ギーズ登場し、ノックする]

ギーズ おい、誰かおるか、おい！ エペルヌーン殿、
陛下はどこにおられる？

エペルヌーン ご自分の部屋におられます。

ギーズ どうか陛下にギーズが参りましたとお伝え下さい。

畏れながら陛下、ギーズ公爵が

お目通りを願っております。

30

アンリ 通すがよい。

さあ、ギーズ、お前の腹黒い策略が先を越されたことを知り、
お前が私のために仕掛けた罠に自ら嵌まって死んでしまえ。

[ギーズ、王の前に登場]

ギーズ 陛下、お早ようございます。

アンリ お早よう、愛する一族のギーズ殿。

35

今朝はご気分はいかがですか？

ギーズ 宮廷にて私が大勢の供を従えておりますことが
陛下のご不興を招いてしまったとのこと。

アンリ 私が不興だなどと申した者こそ責めを負わねばならん。

貴殿もそうですぞ、そんな風に考えると。

40

私がもし親族の者を疑わねばならぬとするならば、
また、最愛の友に疑惑を抱くことになるなら、

これ程辛いことがあるか。

大丈夫だ、私の心は決まっているのだ、
誰がどのような噂を私の耳に囁こうとも、
貴殿の忠誠を疑うことはない。

45

であるから、愛する親戚よ、この辺でおさらばといたそう……

[王アンリ、エペルヌーンと退場]

ギーズ そういうことだ、

今や王さえもこのギーズに恩寵を求め、
私が命令を下せば、王の寵臣たちもこぞって身を屈めるのだ。
これが戦場に軍勢を擁する利点なのだ。

50

さて、聖なる秘蹟にかけて誓うぞ、
古代ローマ人たちが虜囚の王侯たちになした如く、
私もあの軟弱な王に吠え面をかかせ、
誇り高い我が馬車の轍の後に従わせてやるわ。

今や私が辺りに一瞥を与えるだけで、私の過去の日々の

55

すべてを空しく思わせる程のことが成し遂げられるのだ。

剣よ、持ちこたえてくれよ、

お前こそ、ギーズ公爵の望みななのだから。

[第三の暗殺者登場]

おい、何故そのように幽霊のような顔付きをしているのだ？

訳を話してみろ。

第三の暗殺者 おお、お許し下さい、ギーズ公爵閣下。

60

ギーズ 許せだと？ 一体何をしたというのだ？

第三の暗殺者 おお、閣下、私は閣下を殺すよう差し向けられた者の一人でございます。

ギーズ 私を殺すだと、悪党め？

第三の暗殺者 はい、閣下。残りの者は隣室に潜んでおります、

65

ですから、閣下、ここからお出になりませんように。

ギーズ それでもシーザーは行く。

心の卑しい奴と品性下劣な奴ばらには死を恐れさせればよい。

チェッ、奴らはたかが百姓だ、そして私はギーズ公爵だ、

奴らは王侯貴族の一瞥にはひとたまりもない。

70

第一の暗殺者 [奥で] 近くに立っている、奴が来るぞ。

声を聞けば分かるぞ。

ギーズ 灰のごとく青ざめてか？ やい、それならば

用心しなければならん。

[第二、第三の暗殺者登場]

第二、第三の暗殺者 やっつけろ！ やっつけろ！

[二人、ギーズを刺す]

ギーズ おお、致命傷をおってしまった。私に話をさせてくれ。

75

第二の暗殺者 では、神様にお祈りをし、王様にお許しを願うがいい。

ギーズ つべこべ申すな。私は神に対し罪を犯したこともないし、

王に対し許しを願うつもりもない。

おお、何ということだ、生命を留める力もなく、

復讐を成すための不死身さも持たぬとは！

80

百姓どもの手にかかって死ぬとは、何たる苦痛！

ああ、シクストウス、王に復讐を！

ヒリップ王よ、パルマ公よ、貴方がたの為に殺されたのだ！

教皇よ、破門せよ、ヒリップよ、退位させよ、
呪うべきヴァロアに繋がる邪悪な血統を。
聖餐式万歳！ ユグノーども、滅びよ！
シーザーはかくの如く行き、かくの如く死んだのだ。

85

[死ぬ]

[護衛隊隊長、コッシン登場]

コッシン 何だ、やってしまったのか？
では、暫く待っておれ、国王様をお呼びして参る。
いや、お見えになったぞ。

90

[王アンリ、エペルヌーン、及び従者たち登場]

陛下、ご覧下さい、ギーズめが殺されておりますのを。
アンリ ああ、この心地よい眺めは我が魂を癒してくれるぞ。
奴の息子を連れて来て、父の死にざまをとくと見せてやるがよい。

[従者退場]

幾千もの人間を虐殺した罪の重荷を背負って、
ロレーヌの殿よ、地獄へと沈み行くがよい。
生前のお前が私を唆して誘い込んだ
数々の血なま臭い騒乱を思い起こし、
ここにおいて、すべての者たちの面前で誓って申す、
この時に致るまで私は真のフランス国王ではなかったのだと。
他国との戦乱、そして内乱を戦う為に
我が黄金を費やしていたのはこの反逆者なのだ。
彼らの真の女王に対し反逆を企てるために、
イギリス人の僧侶などをドゥエよりリームズの
神学校へと引き連れて来たのは彼ではなかったか？
スペイン王の大艦隊をしてイギリスを脅かし
私に脅威を与えたのも彼ではなかったか？
彼は今は亡きムッシュウに危害を加えたのではなかったか？
ナヴァール王と私との間で起こった内乱において、

95

100

105

教皇を擁護するため、我が国力の強化のために用うべき
財貨を私に使わせたのは彼ではなかったか？ 110

チェッ、つまりは、彼は私を僧侶にするか、
さもなくば、殺害し、自らが王になろうと企てたのだ。
ことの顛末を耳にするであろうキリスト教国の王侯たちは——
全世界がやがて我がギーズの死を知るであろうから——
これで、ここで私が誓うことで満足してほしいのだ、 115
私ほどに頸木に繋がられていたフランス王は

かつていたこともなかった。

エペルヌーン 陛下、彼の息子が参りましたぞ。

[ギーズの息子登場]

アンリ おい、坊主、お前の父が倒れている様を見るがよい。

ギーズの息子 お父様が殺された！ 誰がこんなことをしたの？

アンリ 坊主、お前の父親を殺したのは私だ、お前も殺してやる、 120
お前も父親同様の謀反人とわかったらな。

ギーズの息子 あなたは王様でしょう、それなのに

こんな醜いことをしたの？

仇を討ってやる。 [短剣を投げ付けようとする]

アンリ この坊主を牢獄へ連れて行け？ こいつの翼を

刈り込んでやる、私の手を越えて舞い上がらぬうちにな。

この子を連れて行け！ 125

[ギーズの息子、従者たちと共に退場]

だが、この謀反人の死が何の役に立とう、

奴の弟のドゥメーン公爵が生きており、

あれ程傲慢になった若い枢機卿もおるというのでは？

オレルアン総督のところへ行き

我が名において公爵を殺せと命じてまいれ。 [コッシンに] 130

行け、そして枢機卿を絞め殺してまいれ。 [暗殺者たちに]

[コッシンと暗殺者たち退場]

奴ら二人がおればもう一人のギーズ公爵がいるも同然だ、

特に老皇太后のお力を借りるとなれば。

エペルヌーン 陛下、皇太后様がお見えになりましたぞ、

この度の事件の知らせを受けて、打ち沈んでおられるご様子。 135

アンリ 沈ませておけばよかろう；私の方は心も軽く、弾んでおるわ。
[カトリーヌ皇太后登場]

母上、この度の私の策略はお気に召しましたか？

私がギーズを殺しました、真の王になりたかったからです。

カトリーヌ 国王になりたいですって？ 何をいうの、ずっと以前から
そうだったではありませんか！

このような事をしてしまったからには、願わくば

あなたが国王になれますように。 140

アンリ いいえ、彼が王であって、反対命令を出して私の命令を
撤回させていたのです。

だが、今や私が王となり、自ら支配し、

ギーズ一派の生き残りどもには腰を屈めさせてやる。

カトリーヌ 悲しみのため言葉も出ない。あなたが生まれた時に、
息子よ、あなたを殺しておけばよかったです。 145

息子ですって！ あなたは取り替えっ子で、私の息子などではない！

私はお前を呪い、お前は異端者、

神への、そしてフランス王国への反逆者だと叫んでやる。

アンリ 喚け！ 怒鳴れ！ 喉がしわがれるまで
絶叫するがよろしかろう！

ギーズは殺された、だから私は喜んでいなのだ。 150

さあ、武装しよう。来い、エペルヌーン、

皇太后には、そうしたいのなら、心ゆくまで嘆かせておくがよい。

[王アンリとエペルヌーン退場]

カトリーヌ 行ってしまえ！ 私を一人物思いに耽らせておいてくれ。
[従者たち退場]

愛しいギーズよ、王が死んで、あなたがここにおられたなら。

今となっては、秘密を誰に打ち明けたらよいものか、 155

また、信仰というものを樹ち立てるのに

誰が力を貸してくれるだろうか？

プロテスタントどもは得意がり、尊大になるだろう、

邪悪なナヴァール王がフランスの王冠を手にするであろう、

教皇の権威は保持されず、すべてが破滅の憂き目を

見ることになろう、

すべてはあなたが亡くなってしまったため、私のギーズよ。

私は一体どうすればよいのか？ 160

だが悲しみが私の苦しむ魂を捕らえてしまった、
ギーズが死んでしまったからには、私も生きてはいけない。

[退場]

第二十一場

[暗殺者二人、枢機卿を引きずって登場]

枢機卿 私を殺してはならぬ、私は枢機卿だ。

第一の暗殺者 あんたが枢機卿だろうと、我々から逃げるなんて
できませんぜ。

枢機卿 何と、お前たちは聖職者の血で手を汚そうというのか？

第二の暗殺者 あんたの血を流す？ おお、神様、とんでもないことです、
我々は締め殺そうとしているのですから。 5

枢機卿 では、死以外、助かる道はないのか？

第一の暗殺者 ありませんね、だから覚悟を決めてくださいよ。

枢機卿 だが、私の弟、ドゥメーン公爵、その他多数の者が
生きておるぞ、

そして、あの呪うべき王に、我々の死に対する復讐を
してくれるであろう、

復讐の女神がこぞってあの王の心臓をしっかりと握り、 10
爪を立てて、王のどす黒い魂を地獄にどっぷり浸して

くれるであろう。

第一の暗殺者 枢機卿閣下、あなたの魂をとるべきだったね。

[二人、枢機卿を絞める]

そうだ、力いっぱい引っ張るんだ。

奴の心は冷酷で、石のように堅い心臓だ、猛烈な勢いで引っ張れよ。
さあ、死体を片付けよう。 15

[二人、枢機卿の死体をもって退場]

[ドゥメーン公爵、手紙を読みながら、他の者たちと共に登場]

ドゥメーン 高潔な兄上が王のために命を落とされた!

おお、あなたの死に復讐をするために、私は一体

何をしたらよいのだろうか?

王一人を殺すだけ、それだけでは我慢がならない。

愛するギーズ公爵よ、我らが寄り掛かるべき柱であったのに、

あなたが亡くなっては、ここには我々の支えとなるものは何もない。 5

私はあなたの弟だ、だからあなたの死の復讐を遂げ、

ヴァロア家の血筋をフランスから根こそぎにし、

卑劣にもあのようなフランス王と手を結ぼうともしている、

傲慢なブルボン家の奴ばらを生まれ故郷へと叩き出してくれよう。

フランス王の残忍な考えは彼自身の破滅をもたらすことになるろう。 10

彼はオルレアン総督に、王の名において、

急ぎ私を死に追いやるよう命じたのだ、

ところが、こちらに機先を制されて、王の死、

高潔なギーズを敢えて殺そうとした

あのローマ教会への反逆者すべての死を招くことになるのだ。 15

[修道士登場]

修道士 閣下、私は、閣下の兄上、ロレーヌの枢機卿が

王の同意のもと、最近絞殺されたことをお知らせに参上しました。

ドゥメーン わが兄の枢機卿が殺されて、そして私が生きている?

おお、一千人もの人間を殺す言葉の力よ。

さあ、出かけよう、そして兵を集めよう、 20

あの暴君の思い上がりを抑えるには戦争にしくものはない。

修道士 閣下、一言聞いて下さい。

私はジャコバン派の修道士ですが、

良心の求めに応え、王を殺そうと思っています。

ドゥメーン だが、どうして他の者にもましてそのような事を

したいと思うのだ。 25

修道士 おお、閣下、私はこれ迄に大罪を犯したことがあります、

このことをやりおおせれば赦罪を受けられるのです。

ドゥメーン　だが、どのようにして好機をとらえるのだ？

修道士　チェッ、閣下、私にお任せください。

ドゥメーン　修道士、私と一緒に来てくれ、

このことについて、奥でもっと話をしよう。

30

[二人退場]

第二十三場

[ドラムとトランペットの音、フランス王アンリ、ナヴァール、
エペルヌーン、バルトゥス、プレッシュェ、従者たち、兵士たち登場]

アンリ　ナヴァールの兄弟よ、私が常に

あなたの敵であったこと、あなたの優しく、気高いお心が
不快きわまりない戦乱によって絶えず

悩まされておられたことを大変遺憾に思っております。

私は、正当なフランスの国王として、

5

私が最愛の友人たちに常に示してきた

あらゆる名誉と愛情をもって

和解を受けてくれたあなたの愛に報いることを誓います。

ナヴァール　このナヴァール王がフランス王に対して

誠実であることをご理解いただければ十分です。

10

このナヴァール王の命のある限り、あなたへの奉仕を

お命じ下さいますように。

アンリ　わが兄弟ナヴァール王よ、お言葉痛み入る

では、このルテティアの城壁の前に軍を配備し、

娼婦の如きこの市をわが軍によって包囲しましょう、

我が軍に翻弄されるのに辟易し、

15

この市が憎しみに満ちた腹の中のものを地上に吐き出すまで。

[使者登場]

使者　恐れながら陛下に申し上げます。パリ市長より

派遣されましたジャコバン派の修道士が陛下に

お目通りを願っております。

20

アンリ　通してみよ。

[使者退場]

[修道士, 手紙を持って登場]

エペルヌーン この修道士の顔付きが気に入りません。

陛下, その者の体を調べても不都合はないでしょう。

アンリ 親愛なエペルヌーン, 修道士というものは聖職者だ,
故に世界中の富や財宝を引き換えにしても
王に対し暴力を振るうことなどはない。

25

修道士よ, そなたは私を王と認めるのだな?

修道士 はい, 陛下, そのためには死も辞しはいたしません。

アンリ では, 近くへ参り, どのような知らせを齎したのか

聞かせてくれ。

修道士 陛下, パリ市長がこの早便によりまして

陛下に敬意を表し, ご挨拶申し上げ, 謹んで陛下の

ご返事を願わしいと申しております。

30

[手紙を差し出す]

アンリ 修道士, 一読し, ご返事をいたそう。

修道士 [聖ヤコブ様] 今こそ私にお恵みを!

[修道士, 手紙を読んでいる王をナイフで刺す,

王, そのナイフを奪って修道士を刺し殺す]

エペルヌーン おお, 陛下, 奴をしばしの間生かしておいて下さい。

アンリ いや, この悪党は死なせてしまえ, そして地獄で

反逆に対する当然の呵責を味あわせてやるがよい。

35

ナヴァール おや, 陛下もお怪我をなさいましたか?

アンリ そうだ, ナヴァール殿, だが, 死ぬ程のことはあるまい。

ナヴァール 神よ, 陛下をかくも突然の死からお護りくださいますよう。

直ちに外科医を呼んで参れ。

[従者退場]

アンリ 自ら神聖なる教会の一員であると認めている者の

40

何という異教的, 冒瀆的属性を表していることであろうか!

この呪われた悪党の死体を私の見えないところへ片付けてくれ。

[従者たち, 修道士の遺体を運んで退場]

エペルヌーン ああ, 陛下が奴を生かしておいて下されば,

我々が奴に応分の罰を科してやれたものを。

アンリ 親愛なるエペルヌーンよ, 天の下のあらゆる

45

反逆者にとり、君主に向かって武器をとればどうなるか
 奴の受けた罪が恰好のみせしめとなろう。
 イギリスの大使を直ちに呼び寄せよ。

[従者退場]

我が姉妹ともいうべきイギリスの女王にこのことを知らせ、
 二心ある敵の存在について警告をしてあげよう。

50

[外科医登場]

ナヴァール 恐れながら、外科医にお怪我の具合を探らせて下さい。

アンリ この傷は、確かに、深いものだ、ナヴァール殿。

探ってみてくれ、外科医よ、結果を私に説明してくれ。

[外科医、傷口を探る]

[英国大使代理登場]

イギリスの大使代理殿、貴国の女王陛下にお知らせしてもらいたい。
 この憎むべきジャコビアン僧のなしたことを。

55

女王に伝えて欲しい、このような事態にも拘らず、私は

生きるつもりでいると、

もしそうなれば、教皇側の君主は破滅し、

そして反キリスト教の王国も崩壊するであろう。

この血塗られた手が教皇の三重宝冠を引き裂き、

呪われたローマをその耳もとで炎上させてやろう。

60

ひび割れのしたその建物に火を放ち、教皇庁の

尖塔を卑しい大地と口づけさせてやろう。

ナヴァール殿、お手を取らせて下さい。ここに私は

かくも惨虐な陰謀を企てる

邪悪なローマ教会を潰滅せしめることを誓い、

65

ローマカトリックを憎むが故に神が祝福を与え給うた

ご貴殿と、とりわけイギリスの女王に対し

永遠の愛を誓いましょう。

ナヴァール そのお言葉で、陛下がそれ程に果敢なお心でおられる

の知り、私の信念も新たになり、心も安らぎました。

70

アンリ 外科医よ、言ってくれ、私は助かるのだろうか？

外科医 ああ、陛下、樂觀できない状態でございます、

毒を塗ったナイフで刺されたのですから。

アンリ 毒を塗ったナイフだと！ 何ということだ、フランス王が傷を負い、毒が廻って死なねばならぬのか？

エペルヌーン おお、

75

あの呪われた悪党が甦ったなら、

工夫を凝らし責め殺してやれるのだが。

バルトゥス 奴の死に方は立派すぎました。地獄の悪魔が奴の邪しな魂を責めさいなんでくれればよい。

アンリ ああ、死んでしまったからには、奴を呪ってはならぬ。

80

おお、致命的な毒が胸の中で荒れ廻っておる。外科医よ、

気休めではなく、言ってくれ、私は助かるのか？

外科医 ああ、陛下、お助かりにはなれません。

ナヴァール 外科医、何故そのようなことを申すのだ？ 陛下は

お助かりになるやも知れぬではないか。

アンリ おお、いや、ナヴァール殿、あなたにフランス王になって

いただかねばならぬ。

ナヴァール 陛下が長生きをされ、いつまでもフランス王であられま

すように。

85

エペルヌーン さもなければ、エペルヌーンに死を！

アンリ 親愛なエペルヌーンよ、貴殿の王は死ぬのだ。諸卿よ、

勇敢なこの王のために戦ってくれ、

彼は貴殿たちの正当な国王であり、我が王位継承者なのだから、

ヴァロア家の血筋は私の悲劇で幕を閉じるのだ。

90

これよりはブルボン家に王冠を戴かせるのだ、

ブルボン家が我が一族のごとく流血のうちに終わることの

なきように。

泣いてくださるな、愛するナヴァール殿、ただ私の死には

復讐をして欲しいのだ。

おお、エペルヌーン、涙を流すことが貴殿の私への愛なのか？

貴殿の王アンリがその幼子の如き涙を拭い去り、

95

教皇シクストゥス五世の骨でその剣を研げと命ずるぞ、

それでカトリック教徒どもを切り刻むのだ。

多量の涙を流す者ではなく、多量の血を惜し気もなく

流す者こそ私を愛してくれる者なのだ。

パリに火を放て、そのような反逆者どもが隠れ潜んでいる処
だからな。 100

私は死ぬぞ、ナヴァール殿。さ、私を墓へ連れて行ってくれ。
私の名でイギリスの女王に挨拶を送り、
アンリは彼女の誠実な友として死んだと伝えてくれ。

[アンリ死ぬ]

ナヴァール さ、諸卿、王のご遺体を担いで参ろう。

立派に埋葬されるのを見届けるのだ。 105

それから私は王の死に対し復讐をすると誓うぞ。

ローマとその地に住む、教皇に仕えるあらゆる聖職者どもに、
アンリの時ならぬ死によって、ナヴァールが王となり、
フランスを統治するに至ったこの時を呪わせてやるのだ。

[四名の臣下の肩に担がれた王の遺体と共に、葬送曲に送ら
れて、武器を地面に引きずりながら、全員退場]

[注]

第十六場

- line. 13. 'minion' は "Edward the Second" の場合と同様、単にお気に入りの家臣というのではなく、溺愛する、同性愛の対象を示唆する存在。
14. ト書き 「ギーズに向かって額に角を生やしてみせる」 妻に不貞を働かれたギーズを揶揄するアンリ。慣習的な身振り。
28. Par la mort de Dieu, il mourra. = By God's death, he shall die.

第十七場

1. 史実によれば、ジョワユー公爵は 1587 年コントラの戦闘に敗れ、戦死。
15. 英国女王 エリザベス女王。ナヴァール国王アンリはカトリック信仰打倒のため終始、女王との同盟を求めている。
17. 聖遺物 (relics)
(1)カトリック教徒が崇拝する聖遺物、
(2)前時代の遺物としてのカトリック教徒自身、
等の解釈があるが正確な意味は不祥。

第十八場

- 1~17. この間のみ編注者 Irving Ribner は 'Collier Leaf' (1~31) に拠っている。その理由を以下のように述べている。"The present text is based on the Huntington Library copy of the octavo, which has been collated with a Xerox reproduction of one of the British Museum copies.

There is in the Folger Library a curious manuscript leaf containing thirty-three lines of the beginning of the eighteenth scene of the play. This leaf, originary in the hands of John Payne Collier and later in those of J. O. Halliwell, differs markedly from the octavo

version of the scene in that it is much fuller. Collier believed that it came from a theater manuscript and that it might well be in Marlowe's own handwriting.

31. ヴァロワ公の血筋 ギーズはフランスの主権を担うヴァロア家の血筋ではなく、ロレーヌ家の一員である。(しかし、従姉妹のスコットランド女王メアリーが王の兄フランシス二世と結婚したことにより王の一族に連ることになる)
32. ブルボン一族 フランス王となりヴァロア王朝を継続したナヴァールのアンリの一族。
33. 神聖同盟 ユグノーを排除しフランスにカトリックによる統合を実現しようとしてギーズ一族が結成した(1576) 宗教的, 政治的同盟。
38. ギーズ公爵はスペインとローマ教皇から巨額の金銭的援助を受けている。

第二十場

27. Mounted his royal cabinet. 恐らく王の私室の高座にしつらえられた王の椅子に座しているという意味。ギーズが舞台に登場し、ノックをする時点で王は舞台奥に退き、王座についているということであろう。しかしこの辺りは舞台上のイメージが明確でない。
67. Shakespeare: Julius Ceasar; II, ii, 5. 参照。
82. Sixtus=Pope Sixtus V
83. Philip=King Philip II of Spain
Parma=Alexander Ferneze, Prince of Parma, leader of the Spanish forces in the low countries.
95. ロレーヌの殿 ギーズ公のこと。ロレーヌのアンリと呼ばれていた。
103. 英国から逃亡して来たカトリックの信奉者たちのためにドウエとリームズに設立された英国の神学校。ここから任務を帯びたイエズス会の司祭たちが英国へ送りこまれた。
104. 恐らくマーローは1586年に露見したエリザベス女王に対する「バビントン反逆」事件に言及しているのであろう。
105. スペイン王の大艦隊 1588年にイギリスに敗れたスペインの無敵艦隊。
107. Monsieur=François due d' Alençon, 1584年没。
146. 取り替えっ子 揺籃の中からさらわれ妖精の子と取り替えられた子。(古い民間伝承の話から)
162. 皇太后カトリーヌは1581年1月に死去。

第二十二場

23. ジャコバン派 ドミニク派, フランスのドミニク派はパリの聖ジャック教会を用いていたのでジャコバン派とも呼ばれた。
27. meritorious 贖罪に値する, アンリIIIを殺害することは, 教皇シクタスVによって正当化されていた。

第二十三場

13. Lutetia=Paris
18. President of Paris=leader of the parliament of Paris
62. Edward the Second: I, iv, 100~101. 参照。